

# 中間業績概況

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	(参考) 前中間連結会計期間 自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日	当第2四半期連結累計期間 自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日
	売上高	1,478,398
売上原価	871,367	1,102,381
売上総利益	607,031	773,497
販売費及び一般管理費	817,870	622,041
営業利益	△210,838	151,455
営業外収益	10,257	17,653
営業外費用	72,509	85,500
経常利益	△273,090	83,609
特別利益	6,800	993
特別損失	111,444	34,598
税金等調整前四半期(中間)純利益	△377,734	50,004
法人税等合計	21,387	26,765
四半期(中間)純利益	△399,122	23,239

### 売上高

当期間(第2四半期連結累計)は、主力OEM先であるロシグループ及びキアゲングループ向けDNA自動抽出装置について、バージョンアップによる新製品が本格的に出荷開始されたことから、売上高1,875百万円(前年同期比26.9%増)と、大幅な増収を確保いたしました。その影響から、売上総利益も773百万円(前年同期比27.4%増)となりました。

### 営業利益

また、販売費及び一般管理費については、前期より手掛けてきた様々なコスト削減策が功を奏し、622百万円(前年同期比23.9%減)と、費用削減することができました。その結果、営業利益151百万円(前年同期は営業損失210百万円)と、利益確保することができました。

### 経常利益・四半期純利益

一方、近時の円高による為替差損75百万円(営業外費用)や子会社のPSSキャピタル㈱における投資事業組合管理報酬返還金(管理運営するベンチャーファンドの規模を20億円から10億円に縮小したことに伴い、過去の超過受領分をファンドに返還するもの)33百万円(特別損失)などのマイナス要因はあったものの、経常利益83百万円(前年同期は経常損失273百万円)、四半期純利益23百万円(前年同期は四半期純損失399百万円)と、前年同期の赤字から黒字転換となりました。

## 製品区分別売上高

	前第2四半期累計		当第2四半期累計		前年同期比
	百万円	%	百万円	%	%
DNA自動抽出装置等	593	40.1	1,117	59.6	88.2
その他理化学機器	99	6.8	4	0.2	△95.8
その他製品	214	14.5	284	15.1	32.7
商品(プラスチック消耗品)	558	37.8	457	24.4	△18.0
その他営業収入	12	0.8	12	0.7	0.1
合計	1,478	100	1,875	100	26.9

#### DNA自動抽出装置等

当期間は、ロシグループ及びキアゲングループ向けの新機種の出荷が、非常に好調に推移したことから、売上高1,117百万円(前年同期比88.2%増)となりました。

#### その他理化学機器

当期間は、売上高4百万円(前年同期比95.8%減)となりました。当区分の売上高は、特注システム等の受注状況により大きく変動いたします。

#### その他製品(装置メンテ、スペアパーツ販売、試薬、ソフトウェアの受託開発など)

当期間は、売上高284百万円(前年同期比32.7%増)となりました。当区分の売上高は、装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

#### 商品(プラスチック消耗品)

当期間は、売上高457百万円(前年同期比18.0%減)となりました。当区分の売上高は、装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、基本的には、順調な伸長が期待できるものと考えておりますが、当第2四半期連結累計期間に関しては、国内向けの一部消耗品の取扱いが完了したことなどが影響し、前年同期比で減少となりました。

#### その他営業収入

PSSキャピタル㈱が管理運営するベンチャーファンドであるバイオコンテンツ投資事業有限責任組合からのファンド管理報酬により、売上高12百万円(前年同期比0.1%増)となりました。

## 取引先別販売状況

	前第2四半期累計		当第2四半期累計		前年同期比
	百万円	%	百万円	%	%
ロシグループ	523	35.4	702	37.5	34.2
キアゲングループ	398	26.9	632	33.7	58.8
三菱化学メディエンスグループ	248	16.8	142	7.6	△42.5
その他	308	20.9	398	21.2	29.1
合計	1,478	100	1,875	100	26.9

ロシグループ及びキアゲングループ：前期より手掛けてきたDNA自動抽出装置のバージョンアップによる新機種に関し、本格的な販売が開始されたことに伴い、大幅な増収を確保することができました。  
 キアゲングループ：第1四半期連結会計期間よりは回復基調となったものの、前年同期比では低調なものとなりました。  
 その他：米国OEM先への出荷が順調に推移したことから増収となりました。

# 中間業績概況

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	前連結会計年度末 (平成20年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	3,202,196	3,086,438
固定資産	1,022,391	920,897
有形固定資産	933,196	869,067
無形固定資産	13,851	10,841
投資その他の資産	75,344	40,988
<b>資産合計</b>	<b>4,224,588</b>	<b>4,007,335</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	866,139	624,226
固定負債	934,858	809,984
<b>負債合計</b>	<b>1,800,997</b>	<b>1,434,211</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,339,321	2,361,875
資本金	2,041,778	2,041,778
資本剰余金	2,508,354	2,508,354
利益剰余金	△2,210,810	△2,188,257
評価・換算差額等	84,268	△32,844
繰延ヘッジ損益	57	△15
為替換算調整勘定	84,210	△32,829
少数株主持分	—	244,093
<b>純資産合計</b>	<b>2,423,590</b>	<b>2,573,124</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>4,224,588</b>	<b>4,007,335</b>

### 資産の部

当第2四半期末の資産合計は4,007百万円となり、前連結会計年度末の4,224百万円に比べ217百万円の減少となりました。受取手形及び売掛金が67百万円減少、たな卸資産が52百万円減少となり、流動資産全体では115百万円の減少となりました。減価償却などにより、有形固定資産が64百万円減少、無形固定資産が3百万円減少しました。また、新たに子会社を連結した影響から投資有価証券が減少したため、投資その他の資産が34百万円減少しました。固定資産全体では101百万円の減少となりました。

### 負債の部

当第2四半期末の負債合計は1,434百万円となり、前連結会計年度末の1,800百万円に比べ366百万円の減少となりました。買掛金が194百万円減少、一年以内返済予定の長期借入金が26百万円減少となり、流動負債全体では241百万円の減少となりました。また、長期借入金が124百万円減少となり、固定負債全体では124百万円の減少となりました。

### 純資産の部

当第2四半期末の純資産合計は2,573百万円となり、前連結会計年度末の2,423百万円に比べ149百万円の増加となりました。四半期純利益の発生により利益剰余金が22百万円増加、新たに子会社を連結したことに伴い、少数株主持分が244百万円増加しました。一方で、為替換算調整勘定が117百万円の減少となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	前中間連結会計期間 自平成19年7月1日 至平成19年12月31日	当第2四半期連結累計期間 自平成20年7月1日 至平成20年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,111	121,432
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87,001	231,633
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66,056	△151,191
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,737	△103,125
現金及び現金同等物の増減額	△146,682	98,748
現金及び現金同等物の期首残高	1,478,611	1,459,398
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	145,630
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,331,928	1,703,777

当第2四半期連結会計期間末の現金及び預金同等物は1,703百万円（以下「資金」という。）となり、前連結会計年度末の1,459百万円に比べ244百万円の増加となりました。下記におけるキャッシュ・フローにより201百万円の増加、連結の範囲の変更に伴う資金の増加により145百万円の増加となった一方、資金に係る換算差額により103百万円の減少となったことによるものであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益50百万円、減価償却費79百万円、投資事業組合管理報酬返還金33百万円、棚卸資産の減少53百万円などによる資金の増加がありましたが、仕入債務の減少84百万円、売上債権の増加26百万円などによる資金の減少があり、営業活動によるキャッシュ・フローとしては121百万円の増加（前年同期は8百万円の増加）となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の取り崩しによる収入（定期預金の純増減）251百万円、有形固定資産の売却による収入4百万円の資金の増加がありましたが、有形固定資産の取得による支出22百万円、無形固定資産の取得による支出1百万円の資金の減少があり、投資活動によるキャッシュ・フローとしては231百万円の増加（前年同期は87百万円の減少）となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出により、財務活動によるキャッシュ・フローは151百万円の減少（前年同期は66百万円の減少）となりました。